



大口 司郎 議員
OGUCHI Shiro

自治会の現状と将来像について、町の考え方と関わり方は如何に。

今後の自治会は

令和6年の第2回定例会で質問したが前町長は、令和4年6月より自治会活動の状況を把握する取り組みを始めた。服部町長は、令和6年11月20日に町長就任後も、同様の取り組みを続けているものと認識している。

Q 令和6年3月現在で46・23%であった加入率はどのように変わったか。増減の具体的な要因は何か。

A 加入率は、令和8年3月現在で40・92%であり、5・31ポイント低下している。町民意識調査の結果によると、未加入の主な理由は、時間的制約、役員負担への懸念、近所付き合いの煩雑などが上位を占めている。

Q 町として自治会が抱える状況についてどのように考えているか。

A 自治会は、防災・防犯、環境保全、福祉活動など極めて重要な役割を担っている認識しているが、加入を義務付けられないことも事実である。引き続き自治会活性化の啓発や役員負担軽減など支援する。

Q 令和4年6月から課長級職員を自治会に派遣している。成果は何か。

A 取り組みを地区カルテとして作成し、各地区の情報の見える化を行うことができたが、課題の根本的な解決には至っていない。今後は、把握した状況を基に、その原因に対する施策の検討が必要である。

Q 町長は現在、自治会をどのようにしていこうと考えているのか。

A 公約である「とよま再生」には、自治会は不可欠な組織である。自治会の活性化のため、魅力発信や啓発、加入促進、地区担当制度による地域と町の連携強化に努めていく。



熊沢 直紀 議員
KUMAZAWA Naoki

臨空第2公園は事業をストップし、時期を見て都市計画決定を覆し、工業団地がベスト。

臨空第2公園の今後の在り方は

数回にわたる一般質問の中で、過去の災害時の事例や避難者数の根拠の曖昧性を示し臨空第2公園の必要性を述べてきた。先般の質問では、臨空第2公園用地を埋め立てた時点でストップしてどうかと質問をしたが、ストップした後の用地を今後どうするかである。

Q 時期を見て、都市計画決定を覆し、工業団地にしようがベストと思うがどうか。8月ごろに検討される公共施設等総合管理計画の見直しの中で十分検討して頂きたいが当局の見解を伺う。

A 都市計画の見直しについては、国や県、町の都市計画審議会など、様々な関係機関との合意が必要である。



調整池建設中

現在、当初の都市計画決定の目的や内容に特段の変更が生じていない状況であり、合意を得ることは非常に困難であると判断をしている。
公共施設等総合管理計画については、各施設の現状を十分に考慮したうえで、その施設が、今後必要なのか、どのように使用するかなど、公共施設の在り方について、全庁的な視点で検討し、公共施設等総合管理計画の見直しを進めていく。